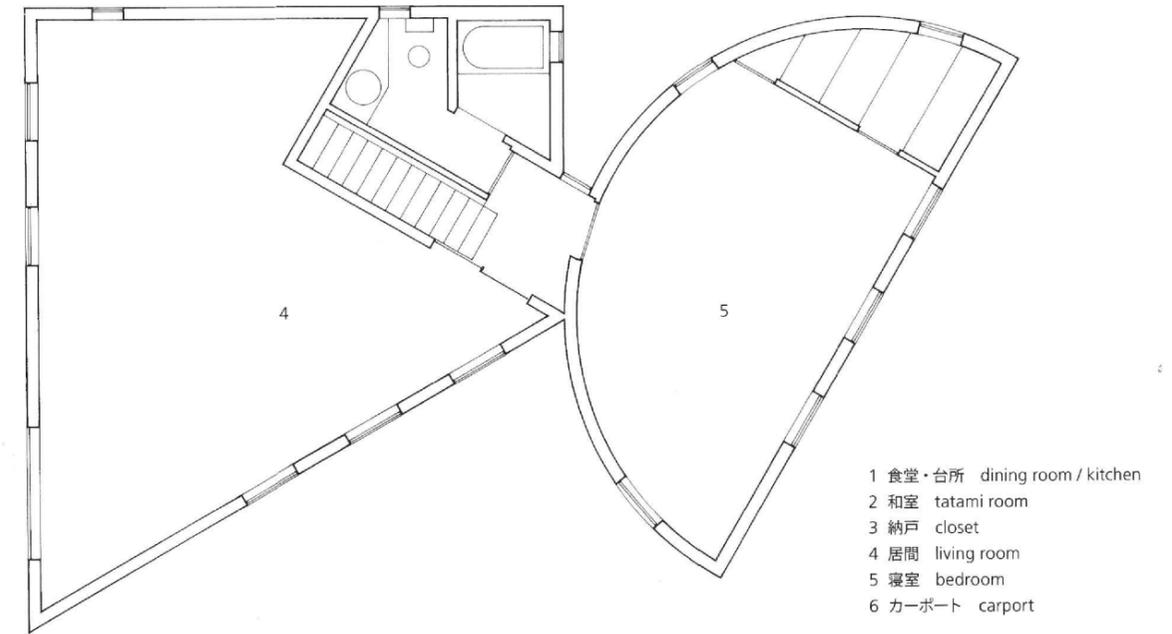
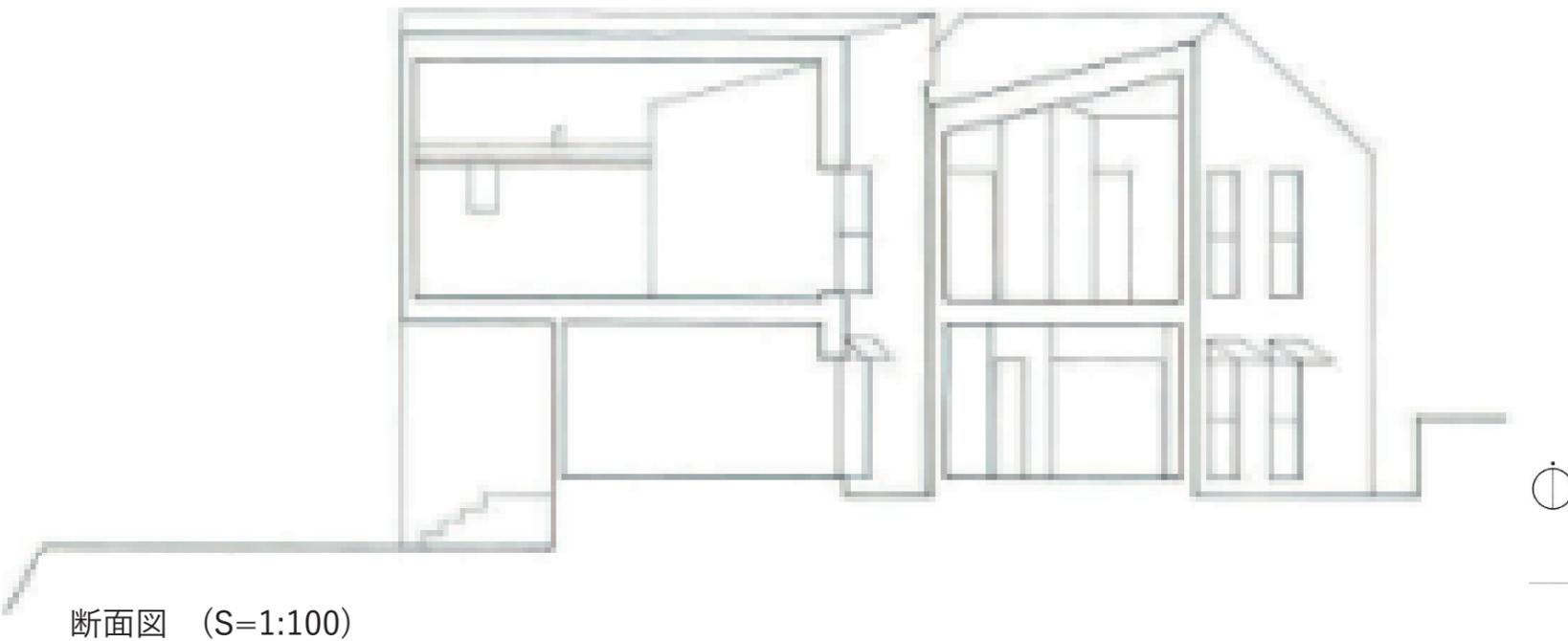


テンメイ・ハウス (1988年、篠原一男)

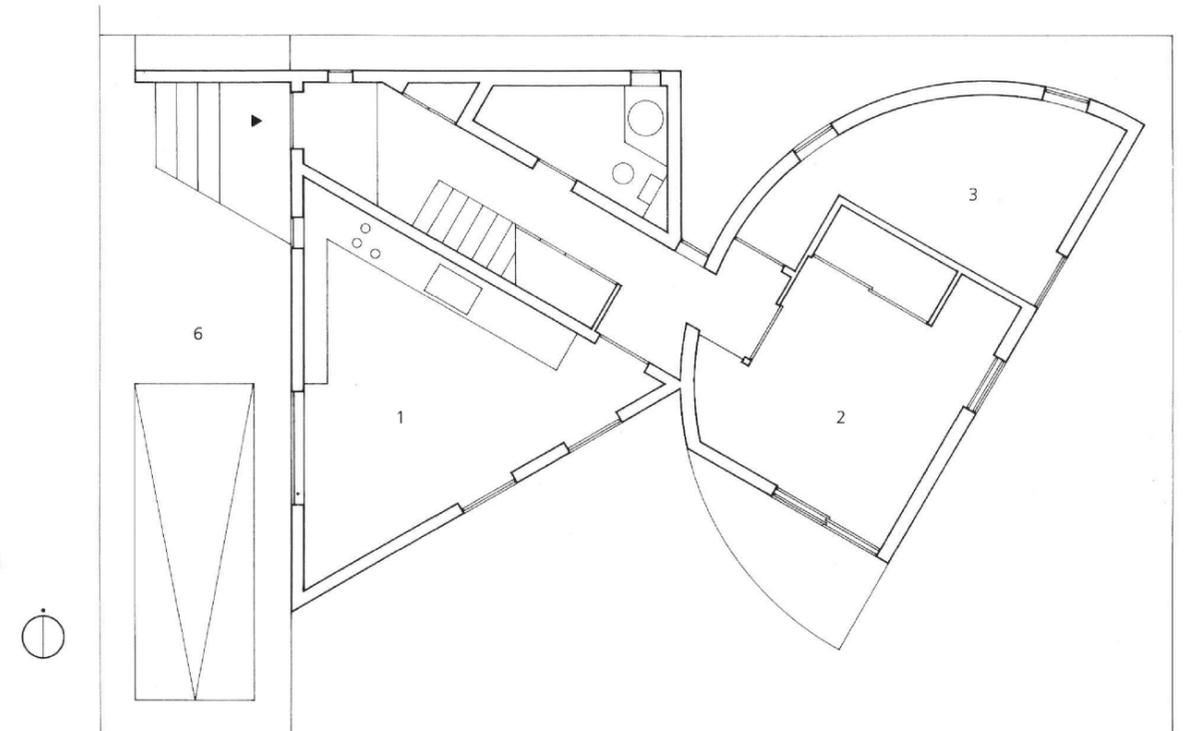
必要なボリュームをこの敷地の中に置くとすると、短形の平面がいちばん自然だが、3m ぐらいの距離で隣家の窓と完全に向かい合うことになる。そこで、2つのブロックに分けて特殊な形の隙間をつくることで隣家との関係を調整している。道路面に対して正三角形のひとつの面を平行にして、30度回転した半円形平面を持つ空間は敷地の奥に接合点が配置されている。



2階平面図 (S=1:100)



断面図 (S=1:100)



1階平面図 (S=1:100)